

伊予市

じんけん教育

2011 No. 12

一人一人の人権が尊重される、明るい伊予市をめざして

編集・発行／愛媛県人権教育協議会伊予市支部 伊予市教育委員会 (〒799-3113 伊予市米湊768番地2 ☎089-982-5155)



なかむら保育所では「元気にあいさつをしよう」「自分の気持ちを言葉で伝えよう」を目標にし、「コミュニケーション力を高める保育をめざしています」。

子どもたちは、役になりきって遊ぶ「ごっこ遊び」が大好きです。自分の体験から遊びに必要なものを考え、工夫して作り、友だちとのやりとりを楽しみます。

街中で年末大売り出しの音が聞こえ始めると、園内ではお店屋さんごっこが盛んになります。各クラスで好きな品物を作ったり、どのようなお店にするかを考えて友だちと話し合ったりします。四、五歳児クラスでは、いろいろな品物やお店ができたので、「えみぶるなかむら」にしました。また、三歳児クラスでは、値段の安さを生かし「十円ダイソー」というお店にしました。

子どもたちには、思いや考えがそれぞれ

みんなであそぶと楽しいね

コミュニケーション力を高める保育をめざして

なかむら保育所



はい、おつりです。ありがとうございました。

れあります。自分の思いをつまやく言葉で伝えられる子、伝えるのが苦手な子がいます。自分の考えを出して話し合うことの大切さを知らせています。

お店屋さんごっこが始まると大きな声で、「いらっしゃい。お寿司、美味しいよ」「くじ屋さんでは「当たる」といい物がもらえるよ」と、自分のお店の宣伝をしたり、買ったり、ありがとごっこをしました。「店員さん口調で会話を楽しんだりする姿が見られました。職員もお弁当屋さんやホットケーキ屋さんをし、子どもたちと一緒に活動しました。

この日、どの子どもたちも、お迎えに来た家の方に、買った品物を見せながら、



どのシールにしようかな？

嬉しそうにお店屋さんごっこの様子を話していました。これも楽しかった自分の素直な気持ちを一緒に共感して欲しかったのだと思います。また、活動を十分楽しんだ後は、子どもは随分お喋りになるということが分かりました。

乳児クラスでは、親子の触れ合いを大切にしたいという願いから、朝の支度や所持品の片づけを親子で行っています。朝の忙しい時間ですが、保護者のご協力に感謝しています。出席シールを貼る場面では、「どのシールにしようかな？」と親子で相談している様子は、微笑ましく感じます。そして、「行ってらっしゃい」「行って来ます」と言葉を交わし、お母さんを見送る子ども、「お仕事、頑張るから、保育所でたくさん遊んでね」と、出かけていく母親の子どもへの思いや温もりが伝わってきます。

情緒の安定を図り、自分らしさを発揮しながら遊ぶ中で、人との関わり方を学んで欲しいと思います。

人権・同和教育への取組

～児童・保護者・教職員の人権意識を育てる～

伊予市立郡中小学校

郡中小学校では、「豊かな心をもちたくましく生きる郡中っ子の育成」を教育目標としています。「自分も周りの人もかけがえない存在であることを実感し、その思いを具体的な態度や行動に表すことができる児童の育成」を人権・同和教育の目標として、日々の教育実践を行っています。以下、その実践の一部を紹介します。

おおしませいしやうえん 大島青松園訪問 ～差別の現実に学び、 教職員の人権意識を育てる～

教職員の研修については、これまで、まず差別をなくす取組を進めるための法的根拠と国や県の方針について学び、その後、参加体験型学習で、女性、子ども、高齢者などのさまざまな人権課題について学び合う形で実施してきました。今年度は、新たな課題としてハンセン病に取り組むことになり、この機会をとらえて、まずハンセン病への科学的認識を深めるため、シリーズ形式で、四回の研修を行いました。内容は次のとおりです。

- 一 医学から見るハンセン病
- 二 歴史から見るハンセン病



〈大島青松園での研修風景〉

- 三 ハンセン病に関する主な出来事
 - 四 ハンセン病回復者の人権
- さらに、参加者二十三人については、DVDによる車中研修を行いながら、去る十一月十五日、大島青松園を訪問して、回復者の方からの聞き取り学習を行いました。

愛媛県出身のお二人の苦しまれた体験談を聞かせていただき、人間の尊厳について大事な学習ができました。

PTA学習会・講演会 ～保護者の人権意識を育てる～

昨年度まで、PTA成人教育部では、人権・同和教育の学習会を、各学期に一回実施してきました。今年度は方法を変え、命にかかわるいじめについての講演会を一月に実施しました。

なかよしパトロール ～児童の人権意識を育てる～

郡中小学校では、日ごろのあらゆる教育活動の中で、たがいに認め合い、戒め合い、支え合う仲間意識を育て、いじめや差別を許さない集団づくりの徹底に努めています。昼休みには、人権委員会の児童が腕章をつけて、もめごとなどの仲裁にあたる、「なかよしパトロール」を行っています。

また、ポスター・標語・作文・詩などの人権啓発作品づくりを通して、人権を尊重することの大切さを毎年再認識させています。



〈なかよしパトロールの様子〉

平成
22年度

第33回 伊予市人権・同和教育研究会

研究主題

「人権尊重の意識・感覚を高め、相手の立場に立ち

差別解消のために行動できる生徒の育成」

伊予市立港南中学校



〈指導者 江口 久さん〉

第三十三回の伊予市人権・同和教育研究会が十一月十五日に行われまし
た。本校では同和問題学習を中心にし
て人権教育を推進しています。
研究会の前半、全学級の授業を公開
しました。各学年の実態や発達段階に
合わせて題材を選び、授業の進め方を
検討して授業をしました。
後半は、「港南人権フェスタ」に参加
していただきました。今年は、テーマ
を「人権の詩人江口いとさんに学ぶ」
として二十七人の人権委員で活動して
きました。江口いとさんは、部落解放
の活動を七十年以上続けてきた方だ
す。四国中央市土居町出身で「同和教
育のお母ちゃん」と呼ばれ慕われてき
ましたが、昨年六月に九十六歳でご
逝去されました。ご自身の詩をまじえ
ながら、全国で三千回以上の講演をさ
れた方です。
夏休みに人権委員は、いとさんの息
子である久さんから、直接話を聞くこ
とができました。それをもとに作った
人権劇を発表しました。
生徒たちは、久さんから話を聞いた
ときに、しっかりとこの現実を伝え、
考えてもらいたいということ強く感
じました。



〈人権劇の発表風景〉

劇は「人の値うち」という詩の朗読
から始まり、江口さん一家が出遭う差
別の現実、でもそれに正面から立ち向
かっていく姿を生徒たちは一生懸命演
じました。そして劇の最後には、「い
とさんの思いは今も多くの人の心に生
きて、差別をなくするための活動に受け
継がれています。あなたも差別をしな
い側に立とうではないですか。そのた
めには、正しい知識と助け合う仲間が
必要です。差別をしない仲間、見て見
ぬふりをしない仲間になっていきま
しょう。それが、いとさんの心を受け
継いでいくことになると思います。」と
いう言葉で締めくくりました。



〈グループ討議風景〉



〈小集団での話し合い〉

今年度は、人権啓発
を進めるに当たり、新
しい企画を立てたいと
いう思いから、小・中
学校、保育所、児童
館、PTA、愛護班及
び体育協会等の協力を
得て、実際に子育てに
携わっている保護者を

内容、小・中学校
での人権に関する取組
状況、人権啓発ビデオ
の視聴の後、教職員や
社会教育指導員が講師
となって、映画のポイ
ントや人権に関わる事
柄をマスコミ等の事例
をまじえてまとめま
す。

すべての差別をなくする 人権・同和教育の推進

大平地区公民館

南山崎校区では、「大平地区
人権・同和教育推進委員会」が
中心となつて、幸せな地域社会
を築くために、地域住民一人ひ
とりが人権・同和問題について
一層の関心を深めるとともに、
人権感覚を高め「幸せに生きて
いくためには自分だけでなく、
みんなの人権が尊重されなけれ
ばならない」ということを真に
理解してもらおう場として、「地
区別人権・同和教育懇談会」を
開催しています。
この懇談会は、毎年七月から
十一月にかけて小字等
十八箇所、十八会場へ
小・中学校の教職員、
伊予市教育委員会社会
教育指導員が出向き、
実施しています。

第62回
全国人権・同和教育研究大会開催
 二〇一〇(平成二二年)十一月
 二十(土)・二十一(日)
佐賀県

第六十二回全国人権・同和教育研究大会が佐賀市、唐津市、武雄市で開催されました。

「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」という研究会のテーマのもと、「しりたい! やってみたい! つながりたい!」誰もが生まれてきてよかったと思える社会の実現を目指しての地元テーマと合わせて、二日間熱心に研究討議がなされました。開会前イベントでは、地元高校生の太鼓と歌・踊りの披露があり、雰囲気盛り上げました。開会式に続いて、本大会の基調提案と特別報告がなされ、参加者は、真剣に聴きました。午後からは各分科会に分かれました。

伊予市からは四十五人が参加しました。分科会場は佐賀市と唐津市でしたが、それぞれの分科会で熱心に研修をしました。各地からの報告を聴き、質疑・討議にも熱が入り、参加して多くのことを学びました。学んだことを、それぞれの立場で生かしていきたいと思えます。



〈開会式風景〉

しかし、フロアからの発言で、現在も残っている差別の現実について、話されました。学校で同和教育を受けた自分ですが、差別についての自分自身の考えの未熟さを反省しました。発言者の話に、被差別地区の方が結婚差別を受け、自殺されたという現実がありました。とても痛ましくて、あつてはならない理不尽なことだと心を痛めました。

◆感想文

**第六十二回
 全国人権・同和教育研究大会
 に参加して**

本大会に初めて参加し、同和問題について改めて考えました。私は、社会教育部の第五分科会に参加しました。識字学級や自分を語る報告等を聴きました。報告では、現在差別を受けている人云々の話は、あまりありませんでした。



〈分科会 フロアからの発言風景〉

人々が差別をなくす努力をし、人権が尊重される社会になってきていることは、喜ばしいことであり、同和教育の成果だと私は感じました。同和教育は人権侵害である差別・偏見をなくすことが目標だと思います。社会に差別がある限り、同和教育は今後も続けなければならぬと思います。同和教育をやめれば同和問題も解消するという意見もあるようですが、それは違うと私は思います。

学生時代に歴史を学びましたが、その中で、今も心に残っていることがあります。それは、「歴史は将来起こる障害に対する一番の薬」ということです。過ちを直すためにも歴史を知り、対策を練らなければなりません。

全国から多くの参加者が集まる本大会に参加して学んだことを、今後の生活に生かしたいと思えます。



〈懇談会風景〉

対象にした「子どもの人権を考える座談会」を開催しました。

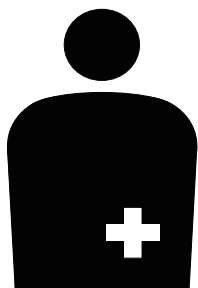
その結果、共稼ぎ家庭の子育てや父親との子育ての考え方の違い、また、祖父母との子育ての考え方の違い等で、子育てに関する悩みが原因となって「子どもの人権を侵害している。あるいは、したかもしれない」という意見に対する見解や解決策等が出され、有意義な人権学習ができました。



〈資料を提示しての講話〉

今後も研修内容に合った工夫をし、「参加して良かった」と思ってもらえる会を企画し、人権・同和教育を推進したいと考えています。

ワークショップ「このマーク知っていますか」



トイレの入口にこのマークを表示し、オストメイト対応トイレであることを知らせます。このマークを見かけた時は、オストメイトに配慮されたトイレであることを理解し、使用される方への心配りを忘れないようにしましょう。

- マークの名称
オストメイトマーク
- このマークは、オストメイト(人工肛門・人工膀胱を保有している方)を示すシンボルマークです。

第25回 人権啓発標語入選作品

一人一人の人権が尊重される 明るい伊予市をめざして

応募数/小学校 260点
 中学校 137点
 高校 63点
 成人 338点

応募総数/ 798点

多数の応募ありがとうございました。入選作品を紹介します。(敬称略)

小学生の部	◆あのこにも こえかけてみよう 「あそぼうよ」 郡中小学校 1年 関谷 駿作	◆消せないよ 心のきずは 消しゴムで 伊予小学校 4年 好永 昌立
	◆またあした ふえるといいな ともちが 由並小学校 1年 武田 有仁	◆未来につなごう やさしい心 翠小学校 5年 上尾 美幸
	◆「ありがとう」言われたほくも「ありがとう」 郡中小学校 2年 長戸 利樹	◆思いやり いくらあっても おもくない 郡中小学校 5年 立川 誠治
	◆手と手をつないで 心も体も ほっかほっか 南山崎小学校 2年 福本 真大	◆ふみだそう みんなを変える その一步 伊予小学校 5年 富田寿希斗
	◆つなげよう ぼくの手 きみの手 みんなの手 下灘小学校 3年 新 明都	◆助け合う みんなの心 結ばれる 下灘小学校 6年 峯 菜月
	◆みんながいるから えがおになれる えがおは わたしのたからもの 北山崎小学校 3年 酒井 杏佳	◆今だ 今 ぼくの勇気が 必要だ 北山崎小学校 6年 西川 圭吾
	◆みつめよう だれもがもってる いいところ 郡中小学校 4年 垣内 幸太	◆差別ない 心豊かな 伊予の町 郡中小学校 6年 森貞 海人
	◆思いやり あふれるふるさと つくろうよ 南山崎小学校 4年 井ノ口萌依	◆伝えよう あなたの気持ち その言葉 由並小学校 6年 織田 雄也
		◆かげ口は 言わない聞かない 言わせない 伊予小学校 6年 筒井 美帆

中学生の部	◆広げよう 言葉をこえた 絆の輪 伊予中学校 1年 稲田 凧沙	◆ありがとう 心をつなぐ 合い言葉 港南中学校 2年 高橋 大輔
	◆ありがとう 君の言葉で 笑顔咲く 港南中学校 1年 藤崎 恋佳	◆「やめよう」と とめる勇気を私から 伊予中学校 3年 佐藤 春奈
	◆咲かせよう 笑顔の花を この町に 中山中学校 1年 升田 美玲	◆育てよう 明るい未来に やさしい心 双海中学校 3年 二宮 美里
	◆自信もて あなたは世界で ただ一人 伊予中学校 2年 折井 勇樹	◆心の樹 育つよあなたの 優しさで 港南中学校 3年 林 宏香
	◆今 君を 必要とする 人がいる 双海中学校 2年 戎井 幹晶	

高校生の部	◆認め合う 気持ちでつなぐ 心の輪 伊予農業高校 1年 岡田セリカ	◆考えよう 軽い発言 相手の気持ち 中山高校 3年 伊勢奈津美
	◆「それもいい」 違いを認める やさしさを 伊予農業高校 3年 清水 舞	

成人の部	◆ありがとう その一言に ありがとう 伊予市尾崎 竹内 志織	◆あいさつで つながる心 あふれる笑顔 伊予市中山町佐礼谷 松浦こずえ
	◆気づいてる? 大事な我が子の SOS 伊予市中村 土居しおり	◆だいじょうぶ ちゃんと見てるよ 君のこと 伊予市双海町上灘 高岡 聖子
	◆素敵だね 支える心 支える手 伊予市尾崎 曾我部珠美	◆心がちょっと 尖ったら 少し削ってみるといい 松山市南吉田町 近江 優子
	◆差別の芽 作らない 育てない 増やさない 伊予市市場 泉 典子	◆思いやる 心はあなたの 宝物 伊予市大平 中野 利恵
	◆小さな手 かわいい手 みんなつなげば 大きな手 伊予市尾崎 大東 治子	◆差別する 親の背中を 子が見てる 伊予市下三谷 日野 龍彦
	◆比べない 大切なのは 自分らしさ 伊予市稲荷 千葉智加子	◆だれにでも 心の支えは そばにいる 伊予市本郡 篠原真理子
	◆優しさに ふれて つなげて 大きな輪 伊予市尾崎 山本 みか	◆ありがとう その一言で 笑顔さく 伊予市中山町中山 祖母井千春
	◆つくろうよ 笑顔があふれる そんなまち 伊予市尾崎 武田 淳子	◆譲り合う 心に生まれる 明るい未来 伊予市米湊 藤谷 忠義